

水が語るもの

水ものがたり

世界の川と水インフラ (17) ドナウ川中流域 (その2) -

世界の水

水辺空間を生かした都市再生の事例
- アジア: スリランカ・古代宮殿シーギリヤ -

水を訪ねて

豊かな水と美しい自然に恵まれた歴史と景観《前編》

京都の水文化(その14)

京都のシンボル「三条大橋」「四条大橋」
～為政者にとっての橋の価値～

水と文学

桂川・宇治川・木津川、
三川合流部の文学

みんなの水辺

川は、誰にでも開かれた舞台
～名張川から広がる、自然との出会いと学び～

うおーたーねっと

朝鮮通信使と淀川の川御座船

関係者に聞く

流域治水探訪

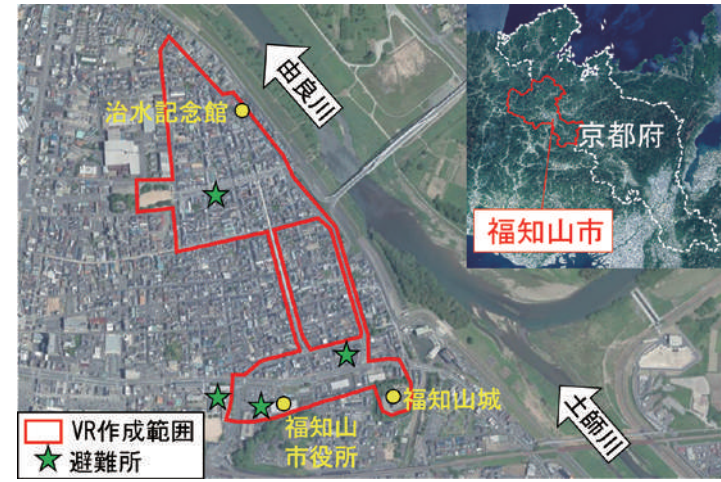
新シリーズ「流域治水探訪」を始めます！



川シリーズ

古代から舟運によって栄えた

淀川

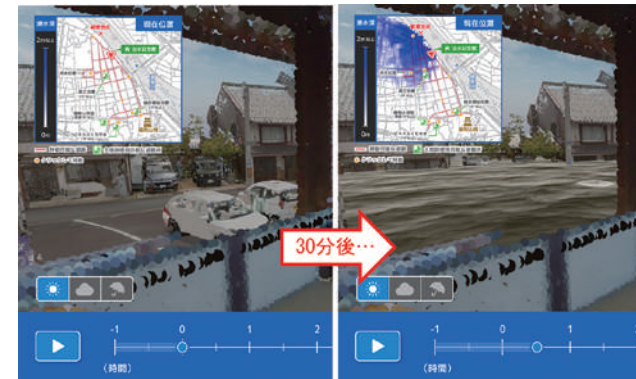


福岡山市街地の約0.25kmにて作成

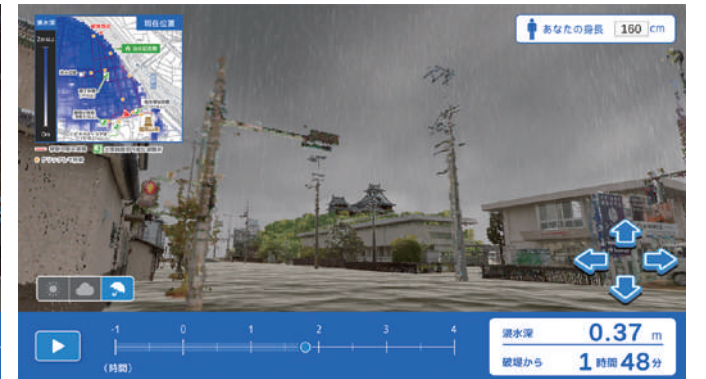
- 1. 3次元モデルの構築**
レーザー光で距離を測るLiDARセンサーと360度カメラの一体型機器で、福岡山市街地の約0・25kmの範囲でモデルを構築。水害への備えが工夫された築140年の町屋を改修して整備されたNIPPON防災資産である福岡山市治水記念館や、福岡山市役所、福岡山城、そして4か所の避難所が含まれています。治水記念館は建物の内部までモデル化されているそうです。
- 2. VRによる浸水状況の再現**
堤防が決壊すると、想定されている速度で氾濫が拡大し、浸水が深くなるにつれて歩行速度が低下するなど、実際の被害で起こりうる現象が再現されています。ゲームコントローラーを操作することで前後左右に進むことができ、浸水した市街地の映像を身長に応じた目線の高さで見ながら、任意の場所から避難所を目指して移動します。行動不能になる前に避難所に到達すると「避難完了」と表示され、ゲーム感覚で避難を体験できる仕組みです。
- 3. VRシミュレーションの活用**
3次元洪水浸水VRシミュレーションは、防災訓練や各種イベントで活用されています。体験者からは「実際の浸水速度が想定より速かったため、危機意識を持った」「初めて浸水の恐怖を実感した」といった声が寄せられ、実際の被害体験に近い臨場感を提供していることがうかがえます。



福岡山産業フェアでの体験会



治水記念館2階から見る浸水状況



VRシミュレーション操作画面(福岡山城周辺)

【資料提供: 福岡山河川国道事務所】



本誌は、近畿の「道の駅」、一部の府県および公共施設などに配布しています。
インターネット環境をお持ちの場合は、
https://kyokai-kinki.jp/archives/category/public_magazine
においても最新号とバックナンバーをご覧になれます。
誠に申し訳ございませんが、バックナンバーの配布は
行っておりませんので、ご了承ください。

編集後記

前号までの「排水機場訪問記」の次のシリーズとして、「流域治水探訪」が始まりました。近畿管内で進められている「流域治水」について、「物事の实情や真相を探るために現場を訪れる＝探訪」によって、一般の方々にも分かりやすいよう紹介していただきます。気候変動の影響により頻発・激甚化する水害に対処するためには、流域内のあらゆる関係者が力を合わせて協働して対応する「流域治水」が求められています。皆さんも身の回りの「流域治水」を考えてみませんか。

【担当: 森川 一郎、益倉 克成、田中 徹、和田 桂子、鈴木 里奈、服部 龍雄、井川 貴史、小柴 梓】



第31号 令和8年1月発行
(年2回発行)

発行 一般社団法人 近畿建設協会
〒540-6591 大阪市中央区大手前 1-7-31 OMM
TEL 06-6941-0201 FAX 06-6941-0180

編集 一般財団法人 近畿地域づくり研究所 誌面に関するお問い合わせ先
協力 株式会社 近畿地域づくりセンター mizugakatarumono@kyokai-kinki.or.jp

「水が語るもの」はインターネットでもご覧になれます。

https://kyokai-kinki.jp/archives/category/public_magazine



この印刷物は環境配慮型印刷を採用しています。



水が語るもの

検索

水が語るもの

表紙写真

大阪府大阪市『淀川』
十三緊急用船着場から見た梅田の夜景



目次

3

水ものがたり
世界の川と水インフラ(17) ードナウ川中流域(その2)ー

京都大学名誉教授 (公財) 河川財団 研究フェロー 池淵 周一

6

川シリーズ
古代から舟運によって栄えた 淀川

10

世界の水
水辺空間を生かした都市再生の事例 -アジア:スリランカ・古代宮殿シーギリヤ- 元大阪産業大学教授 中野 雅弘

工学博士 なかの まさひろ

12

水を訪ねて
豊かな水と美しい自然に恵まれた歴史と景観《前編》 (一社) 近畿建設協会 水環境研究部門 顧問 京都大学 防災研究所 特任教授 和田 桂子

わた けいこ

14

京都の水文化(その14)
京都のシンボル「三条大橋」「四條大橋」～為政者にとっての橋の価値～ 京都産業大学 現代社会学部 教授 鈴木 康久

すずき みちひさ

18

水と文学
桂川・宇治川・木津川、三川合流部の文学 評論家・文化プロデューサー 河内 厚郎

かわうち あつろう

22

みんなの水辺
川は、誰にでも開かれた舞台 ～名張川から広がる、自然との出会いと学び～ NPO法人 地域と自然 代表 中西 崇雄

なかにし たかお

24

うおーたーねっと
朝鮮通信使と淀川の川御座船 水都の会(水都大阪を考える会) 代表 藤井 薫

ふじい かおる

26

流域治水探訪 -関係者に聞く-
新シリーズ「流域治水探訪」を始めます! 近畿水管理・国土保全研究会 会員 梅田 和男

うめだ かずお

28

トピックス
3次元洪水浸水VRシミュレーションによる水害体験



世界の川と水インフラ(17)

ードナウ川中流域(その2)ー

京都大学名誉教授 (公財) 河川財団 研究フェロー 池淵 周一



今号では、ドナウ川中流域の主要な支川と水インフラ施設を取り上げる。その位置や主要な都市は図1を参照されたい。

チェコ、スロバキア領内からドナウ川に流入するモラヴァ川、ヴァーファ川、フロン川にあるダム・堰

モラヴァ川は、流路長354km、流域面積26,660km²、年平均流量119m³/秒。流域の8割がチェコ領で、下流はチェコ、オーストリア、スロバキアの国境を形成している。上流の自然保護区内の小さな貯水池に立ち寄り、ブルノに入る。首都ブラハに次ぐ第2の都市で人口は40万人ほど。石畳の狭い道を抜けた自由広場には中欧最大のゴシック様式の石塔、聖ヤコブ教会、パウロ大聖堂などが林立し、市内には路面電車が縦横に走っている。

モラヴァ川の上流、中流にはダムはないが、最大支流ディエ川には

ノヴェ・ムリニダムとヴラノフダムがある。ディエ川の支川イラヴァ川にもイラヴァダムがある。ノヴェ・ムリニダムは3つのダムが連続し、段階的に建設されたものである。最上流のダムが1978年につくられ、貯水容量1,218万m³。1980年に建設されたダムは貯水容量3,400万m³。1988年建設された最下流のダムの貯水容量は8,775万m³で、いずれのダムも治水と灌漑が目的とか。ダム湖の水深はそれぞれ5m、6m、8mと浅いが湖面積は広大である。ダム間の水位差はほとんどなく、長大なダム堤体の中央部分には3、4基のルールスゲート式の洪水調節施設が



ノヴェ・ムリニダム(最下流)の湖面と古城

ある。最下流のダム湖岸には遊覧船乗り場やヨットハーバーがあり、ダム湖がレジャーやマリンスポーツに活用されている。ダム周辺のゆるやかな斜面にはブドウ畑が広がり、遙か彼方には古城も見える。

ヴラノフダムは1930年に建設が開始されたチェコで最も古いダムで、堤高47mの重力式コンクリートダム。総貯水容量1億3,200万m³。4つのフランシス発電機で80MWの発電を生み出す。湖岸周辺には別荘や住家が多くあり、湖岸の一部は公園になっている。

ヴァーファ川は流路長402km、年平均流量161m³/秒、流域面積19,696km²(スロバキア最大)。ヴァーファ川には10基ものダムがあるが、上流にあるオラヴァダム、最大支川ヴァー川にあるリプトフスカ・マラダムが最大規模のダムである。オラヴァダムは、1953年に建設された多目的ダムで、堤高40m、総



オラヴァダムの水位低下で干上がる湖岸

貯水容量3億4,590万m³、発電量21.8MWの重力式コンクリートダム。リプトフスカ・マラダムは、堤高47m、堤長1,300m、総貯水容量3億6,000万m³、発電量198MWの長大なロックフィルダムである。いずれのダムも下流には大きな容量をもつ副ダムがある。現地を訪ねたとき、両ダムの貯水率は40～50%と水位が10m近く減って、湖岸は広大な干上り地になっており、栈橋はもとより小舟やヨットが浮き上っていた。こうした水位低下は1998年、2003年、200

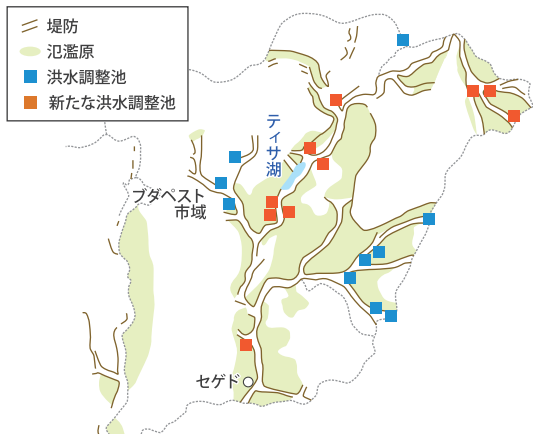


図-2 ティサ川の堤防整備区間と調整池

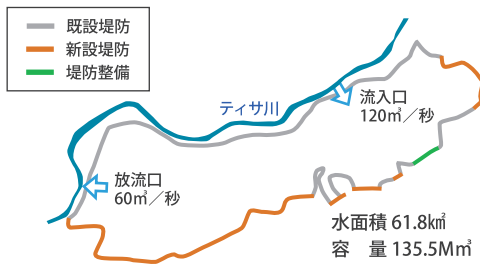


図-3 調整池の事例

る。被害ポテンシャルの高いセゲド、ブダペスト、ジュールなど4地区は特別地区として1／1,000確率洪水を計画対象にしている。いずれもわが国と同様、余裕高の考え

はもとより、発電、灌漑取水・排水も目的にする大プロジェクトでは、1957年に完成した。航行にあつては、積載量200トンの貨物船が600km、1,000トン級のもものは345km航行可能で、16の閘門、6つの大ポンプ場、86の橋が設けられた。ドナウ川に合流する手前にあるカイトソボウ堰は閘門併設の大きな堰である。

ティサ川の洪水対策

が川を塞ぎ止めるアイスジャムによる洪水氾濫、融雪洪水、豪雨に伴う洪水など度々の洪水に見舞われている。中・下流部は低平で河川は蛇行していて湿地や沼地が広がっている。19世紀半ばに河道を真っ直ぐにし、耕地を拡大してきた経緯がある。ティサ川の洪水対策は、バーシャルヘイ計画（河道湾曲部のショートカット化や堤防建設による洪水防御）で進められてきた。堤防の整備と洪水を貯留する緊急調整池（emergency flood retention reservoir）の整備である。堤防の整備は1／100確率洪水を対象になされており、第一級の洪水対策堤防といわれる。ハンガリーには現在約4,200kmのこの種の堤防がある。

をもち、計画高水位に1.2m／1.5mの余裕高をもたせた堤防設計をしている（参考文献）。洪水を貯留する調整池は既設堤防に取水口、放流口を設け、新規堤防として囲い堤を設けるもので、ドナウ沿いに2か所、ティサ川沿いに10か所あり、総面積228km²、総貯水容量3億8,900万m³である。図1-2にティサ川の堤防整備区間と調整池を氾濫原とともに示す。図1-3に緊急調整池の事例を示す。

ティサ川の中流部にはティサ川を堰き止めてできた人造湖（ティサ湖）がある。1997年に灌漑用水と洪水貯留を目的につくられたもので、堰は重力式コンクリート構造で、堰には水力発電所、灌漑設備、閘門設備、洪水の流入設備がある。堰上流には約127km²の水面ができ、湖としては巴拉トン湖についてハンガリー第2の湖である。運用開始後は生物の生息にとっても良い環境を与えている。

河道湾曲部を直線化することで分離された河道は、河跡湖または三日月湖と呼ばれ、漁業や貯水などの経済的な目的に利用されていたが、20

世紀になるとレクリエーション利用、1990年代からはその独特の自然環境の価値が強調されている。保護対象の三日月湖はティサ川水系に36か所あり、最大規模のジャーライ湖は面積160ha、平均水深3.0m、平均水容積480万m³の三日月湖である。

これまで大きな洪水のたびに堤防を嵩上げしてきたが、ティサ川では近年類を見ないような大きな洪水があった。2000年と2001年のそれである。治水対策にあつてはこれまでの堤防を高くするという方法から洪水位を下げる方法への転換がなされた新バーシャルヘイ計画である。そこでは治水対策として更なる改善と新たなプログラムが展開されている。その主要内容は、①河道の貯留能力の向上と、洪水位を下げる方策として河道内の流下能力の改善・強化②調整池の整備として新たな調整池の建設（10か所に総面積70,054ha、総貯水容量15億m³の調整池、図1-2に付記）と調整池の水深引き下げ③洪水予測の精度向上と洪水被害回避対策などが実施されている。

- | | | |
|------------------|-------------|----------------|
| 1 ヨッペン・シュタインダム | 6 カンプタール発電所 | 11 リプトフスカ・マラダム |
| 2 イップス・バーセンベークダム | 7 イラヴァダム | 12 ジリナ堰 |
| 3 フロイデナウダム | 8 ウラノフダム | 13 クラロヴァ堰 |
| 4 ガブチコヴォダム | 9 ノヴェ・ムリニダム | 14 コズマロフチェ堰 |
| 5 ナジマロシュダム（未完成） | 10 オラヴァダム | |



図-1 ドナウ川中流域の本川・支川と主な水インフラ



フロンセック村の木造教会

この地にあつては、何か所かに巨大な風力発電基地がある一方、フロンセック村の木造教会や、木こり職人の古い建物が並ぶヴルコリニェツ

も見られた。ヴァーフ川とヴァー川が合流するあたりにジリナ堰がある。1998年完成の堰で、貯水容量1,890万m³、堰高15m、堰長200m、湖面の長さ7.5km、36MWのタービン2基で72MWの発電を生み出す。ヴァーフ川下流にはクラロヴァ堰がある。貯水容量5,190万m³、45MWの発電。フロン川にはコズマロフチェ堰がある。貯水容量2,450万m³。近くにある5基の原子力発電所に冷却用水を供給している。



洞窟熊の剥製

村の野外博物館（いずれも世界遺産）、歴史・自然史博物館、古城など見るべきものが多くあった。

ブダペストとその周辺

ハンガリーは、盆地の最も低い場所に位置し、国土の80％は標高200m未満の低地である。南東部にはハンガリー大平原が広がり、北西部の小ハンガリー平野には湿地帯が広がっている。

ハンガリーの国土面積は約93,033km²、総人口は約980万人。首都ブダペストに約180万人が住んでいる。町の真ん中を滔々と流れるドナウ川を挟んで小高い丘と緑に恵まれたブダ地区と対岸の平坦なペシュト地区が1873年合体してブダペストになった。ブダには王宮の丘、ゲッレールトの丘がある。漁夫の砦には初代ハンガリー国王イシュトヴァーンの騎馬像が立ち、周辺には高さ80mを超える教塔なども立つ。王宮地区とともにドナウ河岸が、1987年ユネスコの世界遺産に指定されている。この町の最大の観光名所の一つに鎖橋というドナウ川に架かる最古の吊橋がある。リアルなライオン像が橋に掲げられている。

ドナウ・ティサ・ドナウ運河

図1-1にあるように起点はブダペストの下流に位置し、ドナウ川に沿う形で南に向かって流れ、ハンガリー中央部のティサ川、ペガ川、タミシュ川を横断し、タミシュ川から分岐する90kmの区間は開削された直線水路で最後はドナウ川に合流する。運河の全長は960kmといわれ、このドナウ・ティサ・ドナウ運河は物流や商業活動を促進する船舶航行

つくしつ
筑紫津神社

平安時代の歌謡である催馬楽「難波の海」には「難波の海 漕ぎもて上る 小舟大船 筑紫津までに いま少い上れ 山崎までに」とあり、「筑紫津」までは大船を漕いで遡上することが可能だったようです。筑紫津は高槻市津之江の筑紫津神社の付近と推定され、継体天皇の頃から大型船の河港であったとも考えられています。



宇治川派流・濠川

宇治川の派川が堤防によって宇治川から切り離された宇治川派流と、伏見城の外堀として掘られた濠川は、令和 3 年に「みなと」を核とした地域活性化の取組施設である「みなとオアシス」に指定されました。琵琶湖疏水の水を受けて豊かに流れる宇治川派流と濠川は、港町伏見の歴史的景観を形成する貴重な水辺空間となっています。



淀水垂大下津町遺跡から発掘された江戸時代の川船
【(公財)京都市埋蔵文化財研究所 所蔵】

淀津遺構

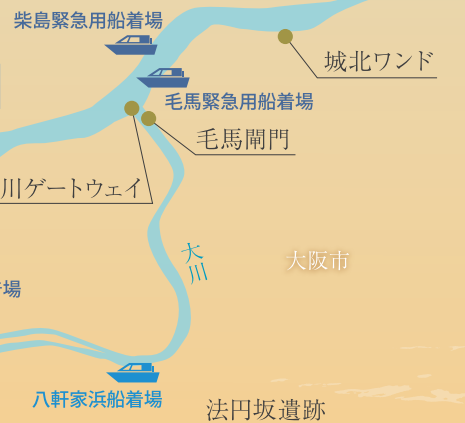
豊臣秀吉が伏見港を整備する以前は、京都における淀川舟運の拠点は淀津でした。平安京の玄関として栄えた淀津の遺構が河川改修工事に伴う遺跡調査で発見されています。

三十石船とくらわんか舟

大阪・伏見間を往来した三十石船は、長さ17m、幅2.5m余りの小船で、船頭4人、船客の定員は28人、朝晩2回、伏見と八軒家（大阪）の両方から出発し、下り半日（又は半夜）、上り1日（又は1晩）で到着したといわれています。三十石船が枚方付近にさしかかると、「酒くらわんか餅くらわんか」と近づいた小舟が「くらわんか舟」です。



「京都名所之内 淀川」歌川広重（1834 年頃）
【国立国会図書館デジタルコレクション】 ※手前がくらわんか舟



高瀬川

高瀬川は、京都の中心部と伏見を結ぶために、江戸時代初期に京都の豪商、角倉了以・素庵が開削した運河です。大正時代に運河としての役割を終えましたが、運河沿いに材木商が集まった木屋町などを流れ、京都の繁華街の貴重な水辺として市民に親しまれています。



しろきた
城北ワンド

蒸気船が航行できる水深を確保するために設置された水制工は、天然記念物のイタセンバラをはじめとする魚類など、多様な生物の良好な生息・生育の場として豊かな自然環境を形成しています。



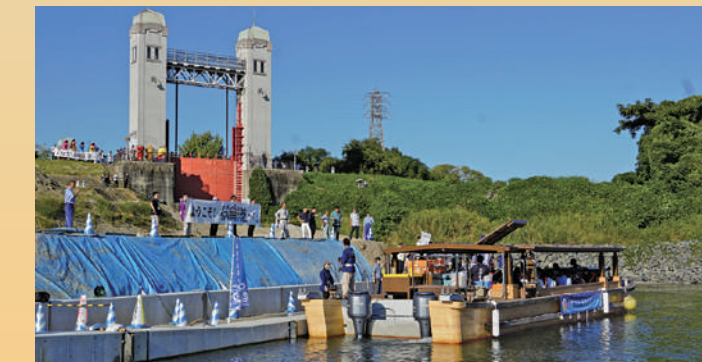
はちけんやはま
八軒家浜船着場

古代の難波津の場所は諸説ありますが、中世に栄えた淀川河口の渡辺津は、大川（旧淀川）の天満橋と天神橋間あたりにあったとされています。江戸時代には、八軒家浜として大阪と京都（伏見）を結ぶ三十石船の発着場となりました。平成20年3月には、京阪中之島線建設工事に併せて整備された八軒家浜船着場が開設され、翌年8月には「川の駅はちけんや」が開業しています。



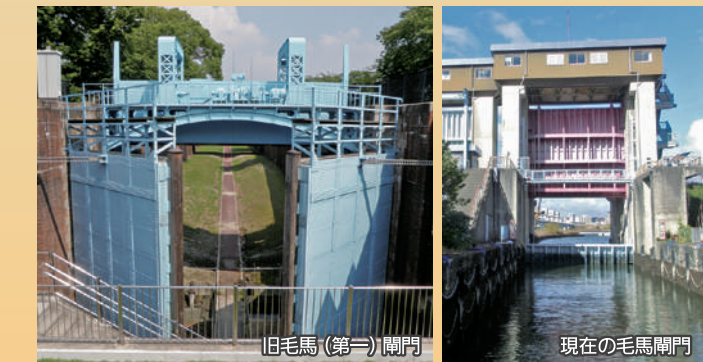
伏見港（三栖閘門）

豊臣秀吉によって整備され京都の玄関となった伏見港ですが、大正6年の大洪水で大きな浸水被害を受けた伏見の町を守るため、新たに堤防が築かれ、伏見港の機能確保のために三栖閘門が建設されました。その後、陸上交通の発達により昭和37年に淀川の舟運がなくなり、昭和43年には港の船泊が埋め立てられています。現在は、宇治川の河床が低下しているため、低水護岸が船着場として整備され、周辺地域では賑わい拠点整備等を行う「伏見地区かわまちづくり」の取り組みが始まっています。



旧毛馬閘門

明治18年の大洪水を契機に、明治29年から開始された淀川改良工事で新淀川が開削され、旧淀川の締切堤に洗堰と閘門が設置されました。毛馬閘門は、明治40年8月に竣工した長さ105.7m規模の煉瓦造及びコンクリート造の構造物であり、後の淀川下流改修工事で毛馬第二閘門が設置された後は毛馬第一閘門と呼ばれていました。わが国最初の高水工事であり、初めて大型建設機械を導入して実施された淀川改良工事の代表的遺構として、平成20年に重要文化財に指定されています。



淀川の舟運の歴史は古墳時代に遡り、5世紀には淀川河口に「難波津」が成立しています。近世には、豊臣秀吉による伏見港整備や江戸時代の角倉了以による大堰川や高瀬川の航路整備により、淀川舟運は、伏見と大阪を繋いだ三十石船など飛躍的に発達しました。明治時代になると、蒸気船が運航できる水深を確保するため、ヨハネス・デ・レーケの協力のもと水制工が設置され、現在もワンドとして淀川の貴重な環境を形成しています。その後、陸上交通の発達により淀川の舟運は途絶えましたが、近年その役割が見直されています。また、市町村等と河川管理者が連携して行う「かわまちづくり」の計画として、舟運を用いて地域活性化に取り組む「宇治市天ヶ瀬ダムかわまちづくり」「淀川河川敷枚方エリアかわまちづくり」「八幡市かわまちづくり」「伏見地区かわまちづくり」が登録されています。

THE RIVER
シリーズ
淀川

古代から舟運によって栄えた

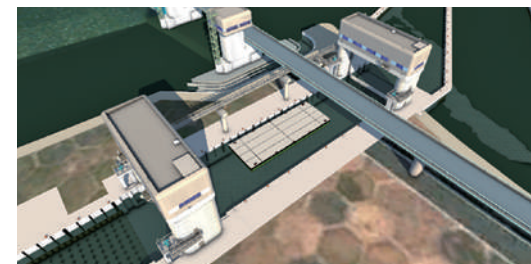
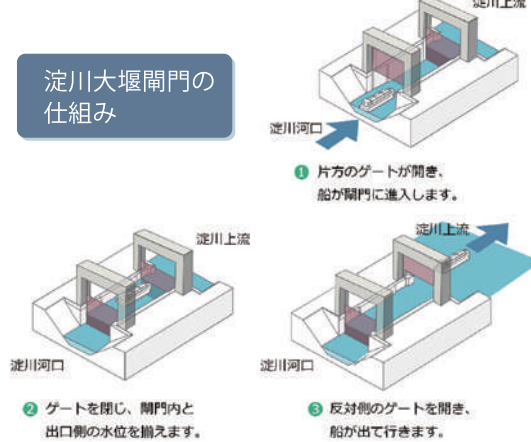
淀川

淀川ゲートウェイ

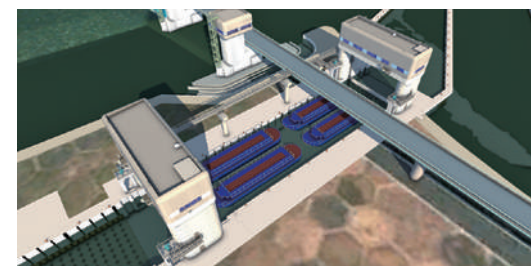
―淀川大堰開門―

淀川河口から約10km地点には、水道水の確保や潮止めを目的に淀川大堰（昭和58年完成）が設置されており、上下流最大2m程度の水位差のため船の往来が不可能でした。

令和7年（2025）3月に、災害時の物資運搬や淀川舟運活性化に向けて整備が進められてきた淀川大堰開門が開通し、淀川河口から京都の伏見まで、一気通貫の航路で結ぶことが可能となりました。淀川大堰開門等によって整備された淀川の航路は、災害時には陸上交通の代替手段として緊急物資や廃棄物の運搬に活用されるとともに、平常時には、公共工事における大規模な資機材や土砂の運搬に活用されます。



500t 台船通過時



大型観光船通過時

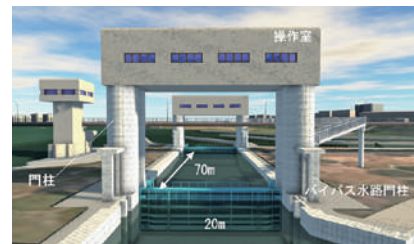


淀川ゲートウェイを通過して万博会場へ向かう船



淀川大堰開門の大きさ

淀川大堰の左岸側に幅約20m、延長約70mの開室を整備したもので、開室幅は日本最大です。資機材を運搬する500t台船であれば1隻、大型観光船（定員100名程度）であれば4隻が同時通過可能となりました。



開門完成図

運用開始とその後の利用

淀川大堰開門は、大阪・関西万博開催の前月の令和7年（2025）3月16日に運用を開始しました。同日には、淀川舟運活性化協議会が、万博開幕1ヶ月イベントとして「淀川クルーズOSAKA BAY新航路OPEN FESTIVAL」を開催し、同イベントの中で、淀川大堰開門通航による伏見から大阪湾への航路の開通及び十三船着場の完成を記念したオープニングセレモニーが行われ、初めて公に淀川ゲートウェイが使用されました。なお、淀川大堰開門整備事業で整備された「淀川ゲートウェイ」の施設名は、淀川舟運活性化協議会の構成員を対象とした公募により決定されたもので、同セレモニーの中で初めて公表されたそうです。



「淀川クルーズOSAKA BAY新航路OPEN FESTIVAL」オープニングセレモニーの様子

運用開始後は、沿川自治体が実施する舟運イベントで民間観光船の通航に使用された他、令和7年5月には、韓国国家遺産庁国立環境研究所と市民有志団体「水都大阪を考える会」が連携して企画された朝鮮通信使船の日韓航路再現計画において、「川御座船」の航行に淀川ゲートウェイが使用されました。

また、10月5日には、毛馬から淀川ゲートウェイを通過して夢洲（万博会場）まで船を航行する社会実験「淀川ゲートウェイを通過して毛馬から船で万博へ行こう！」が行われました。

水の都大阪を支えた淀川舟運

古代難波津から観光船へ

古代の淀川舟運

大阪湾は、古墳時代に入り、中国大陸・朝鮮半島との関係が密接になると海外の文化や物資輸送の玄関となりました。昭和62年に、淀川（現大川）の河口近くにあたる上町台地北端部で5世紀の大規模倉庫群（法円坂遺跡）が発見されました。このため、古代の港である「難波津」は、法円坂倉庫群が現れる5世紀頃には成立しており、「難波館」などが史料に見られる6世紀代には既に外国の使節を迎える港として機能していたと考えられています。



法円坂遺跡 高床式倉庫（復元）



今城塚古墳の石棺のレプリカ



船絵のある円筒埴輪（共に今城塚古墳歴史館）

淀川を遡った高槻市にある今城塚古墳は、継体天皇（450?―53

現在の淀川の観光船

平成7年（1995）の阪神・淡路大震災を契機に舟運の役割が見直され、淀川下流では、河口から枚方まで10か所の緊急用船着場が整備されました。また、災害時の利用だけでなく沿川の賑わい創出の付加価値を期待されるようになりました。平成13年（2001）12月には、大阪府、大阪市、経済界による「水の都大阪再生構想」によって、大阪都心部の河川において道頓堀等

の水辺整備や船着場整備による舟運活性化の取り組みが始まり、平成20年には八軒家浜船着場が開設されました。これらの整備により、一本松海運株式会社および京阪グループの大阪水上バス株式会社は、それぞれ「蘇れ!! 淀川の舟運」と「淀川浪漫紀行」という商品名で、大川の八軒家浜船着場から淀川の枚方緊急用船着場をつなぐ観光船の不定期運航を開始。平成29年9月からは「淀川浪漫紀行」の定期運航が始まり、淀川舟運復活の節目を迎えました。なお、令和3年には新型コロナウイルスの世界的



枚方緊急用船着場に着岸した観光船



さくらであいクルーズ

観光船の利用にあわせて、枚方緊急用船着場周辺で、手作り市「みなと五六市」が開催されるなど交流拠点としても期待されています。また、三川合流部では、淀川河川公園の背割堤地区と一体となった背割堤船着場が整備され、令和元年から一本松海運株式会社が、背割堤での桜の開花状況に合わせて「さくらであいクルーズ」を開催しています。

蔓延を背景に一時運航が中止され、コロナ禍が明けた後は、季節限定運航が再開されています。



みなと五六市

世界の水

水辺空間を生かした都市再生の事例 ーアジア…スリランカ・古代宮殿シーギリヤー

工学博士・元大阪産業大学教授
なかの まさひろ

中野 雅弘



はじめに

前回に引き続いてアジアの事例として、インドの南東、インド洋に浮かぶ奇跡の島スリランカを紹介いたします。北海道を一回りほど小さくしたこの島は、紀元前より2500年におよぶ歴史を持ち、独自の仏教文化を形成しました。スリランカには、天空に浮かぶ古代宮殿「シーギリヤ」をはじめ、神秘と魅惑に満ちた8つの世界遺産、リプトン卿が愛したセイロン紅茶の名産品、スリランカ伝統医療の真髄「アーユルヴェーダ」、そして建築の奇才ジェフリー・パワが創り出した自由闊達な精神世界を

体現するパワ・リゾートなど、多彩な魅力が広がっています。ここでは、世界遺産である巨大なシーギリヤロックの上に造られた宮殿を紹介いたします。シーギリヤの遺跡は、5世紀にカッサパ1世（在位477～495年）によって建造された要塞化した岩上の王宮跡と、それを取り囲む水路、庭園、貯蔵施設などの都市遺構からなります。このシーギリヤロックは火道内のマグマが硬化して出来た岩頸で、形状は楕円柱、標高約370m、岩頸そのものの高さは約195m、全方位が切り立った崖になっています。



水の広場から見上げるシーギリヤロック

1. 古代宮殿シーギリヤ

シーギリヤロック（南北約180m、東西約100m）の上に造られた宮殿は、貯水池をはじめ絶景スポットとして紹介されることが多いのですが、なぜジャングルに囲まれた岩の上に宮殿が造られたのか、岩壁に描かれた不思議な美女のフレスコ画、階段脇に足だけ残る巨大なライオンの像など、謎だらけのエピソードやスポットがいくつもあります。シーギリヤロックは、シーギリヤ（Sigiriya）という場所にあります。車で旧首都コロンボから約4時間半、仏教の聖地キャンデーから約2時間半で到着します。「空中宮殿」とも呼ばれるこの遺跡を訪れた際には、緑豊かなジャングルの中にそびえ立つその姿と同時に岩山の頂上からの絶景に感動を覚えました。



水の広場周辺にある堀

王の沐浴場

水路、庭園、貯留施設

②美女のフレスコ画

登り始めて数十分すると、途中で岩壁一面にカラフルな女性たちの壁画が登場します。現在は十数体が残っているのですが、かつては500体以上の女性が描かれていたそう。これらの壁画は建設から約1400年後、イギリス統治下の1875年にイギリス人によって発見されたことにより、その存在が世界に広まりました。

③ミラーウォールとライオンの爪

その後、「ミラーウォール」と呼ばれる磨かれた漆喰の壁を通って先に進むと、「ライオンテラス」という名の小さな広場のような所に出ます。そこでは大きなライオンの足の像が、頂上に続く最後の急な階段の



岩肌の女性たち



漆喰の壁 ミラーウォール



宮殿入口にあるライオンの足



頂上の貯水施設

入り口を囲んでいます。「シーギリヤ」とは「ライオンの山」という意味で、かつてはここに巨大なライオン像が建っていたとも言われていますが、なぜか他のボディパーツは未だに見つかっていません。

④岩山の上

麓から約1時間。頂上に着くとまず目に入ってくる階段や沐浴場。かつては約1・6haの巨大な宮殿が建っていた跡が綺麗に残っています。高い頂上は水を引いて王様や多くの人々が生活していたとは思えない場所なのですが、スリランカの当時の治水・建築技術の高さが窺えます。そして、高さ180mから眼下を見下ろすと周囲一面に緑のジャングルが広がり、発見される

1875年まで長い時間の流れを感じました。

2. シーギリヤロックと水との関係

シーギリヤは高度な水利技術によって支えられた王宮都市であり、「水の庭園」や頂上の貯水池など、水との関係が非常に深い遺跡で、自然の地形を巧みに利用しながら、当時としては驚異的な水利システムを構築していたことで知られています。

①水の庭園

岩山の麓には、幾何学的に整備された庭園が広がっており、噴水や水路、池などが配置されています。これらは雨水や地下水を利用して機能しており、アジア最古の

①水の広場

シーギリヤロックのふもとにある広い水の広場内に入っすぐにあるのが王の沐浴場（Royal Bathing Pools）です。庭園には噴水のように水が循環する小川や上下水道まで造られていたそうです。この王の沐浴場や5つの穴の開いた円形の石板なども上下水道の一部だそうです。5世紀頃に造られたそうです。

庭園の一つとも言われています。

②頂上の貯水池

岩山の頂上には王宮跡があり、ここにも水を貯めるための貯水池や沐浴場が設けられていました。標高約200mの岩の上に水を引き、王族が生活できるようにするために、当時の高度な建築・治水技術が用いられていました。

③雨水の利用と水圧式噴水

水の庭園には、水圧式の噴水装置が残されており、雨水を利用して自然の水圧で噴水を作動させていたと考えられています。これは、現代の水力技術にも通じる先進的な仕組みです。

④都市計画と水利技術の融合

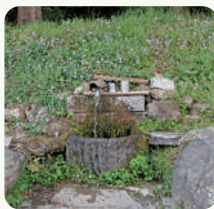
シーギリヤは、王宮、防衛施設、庭園、貯水施設などが一体となった都市遺構であり、景観デザインと水利技術が融合した例として世界遺産に登録されています。

このように、シーギリヤロックは単なる岩山ではなく、水を巧みに利用した都市設計の傑作であり、スリランカの古代文明の高度な技術力を物語っているようです。

水の調べを奏でる 琴滝

京都縦貫自動車道・丹波ICの近くには、一枚岩の遙か上から十三弦の琴の糸のように流れ落ちる「琴滝」が、水の調べを奏でています。落差43m府内最大級の滝は、春は桜、秋は紅葉と美しく、映画のロケ地に利用されています。滝の上には小滝池と大滝池があり、丹波の有力者・須知氏が築いた城跡には、高さ約3mの石垣が残っています。

大滝池は由良川水系の源の一つですが、淀川水系の支川最上流端と約1.1kmしか離れていません。この辺りに降った雨が山頂を隔て日本海と大阪湾に分かれる境となっています。



古くから愛される しゅうずの水

京丹波町の曾根川沿い、のどかな田園の道に、古くから湧き出る清水があります。その清水は、「ほたるの里」の地元有志により愛され、大切に守られ管理されています。農作業後に冷たい清水を飲んだり、コーヒーを淹れてほっとする、そんな憩いの場となっています。

佐々里峠の石室

芦生研究林にある佐々里峠は、京都市と南丹市の境に位置し、京都市側に降った雨は淀川水系を通じて太平洋（瀬戸内海）へ、南丹市側に降った雨は由良川水系を通じて日本海へと流れ込むため、ここは中央分水嶺となっています。峠にある石室は、昔も今も旅人の休憩所として京の都をつないでいます。



源流三国岳

由良川の源流は、三国岳（京都、滋賀、福井の府県境）です。しかし、由良川の分水界には、他にも三国岳が二つ（京都府綾部市、兵庫県丹波篠山市）あり、また三国山（豊岡市と福知山市の境）もあります。三国山、三国岳など三国…とよばれる山は全国に数多くあります。



化、歴史を感じる「かやぶきの里」は『日本の原風景』と呼ばれています。また、上流部の分水嶺や盆地を流れる中流部の分水界では、淀川水系や加古川水系と接しています。今回は、多様な世界をつなぐ由良川の上流から中流域を訪れ、人々の暮らしや営みと、水が織りなす不思議な生態系に触れてきました。

いつも水のそばにある 景観と集落の営み

源流に近い美山の里人は、由良川を「美山川」と呼んでいます。その美山川の緩やかな蛇行に守られた内久保集落の水は、古くから鯖街道を行き交う人々に潤いを与えてきました。現在も、民家や田畑のいたるところに豊かな水が流れています。対岸には、蓮如上人から名を賜り、地元保存会によって景観が維持されている蓮如の滝（落差68m）が流れ落ちています。少し上流の水力発電所は、大正時代の早い時期から各戸への給電と有線放送を行っていたそうです。家々の水管からは清らかな水が溢れ、散歩をする人、水路掃除をする人、農作業をひと休みする人たちと出会い、のどかな集落内の水とともに暮らす情景がうかがえました。



由良川水系と加古川水系をつなぐ 氷上回廊



氷上回廊水分けフィールドミュージアムは、河川や地理の専門家による監修のもとに設立された展示施設で、体験型のツールを使って、温暖化が進んだ場合の海面上昇について実験模型で学習できます。海面が10m上昇すると加古川の平野

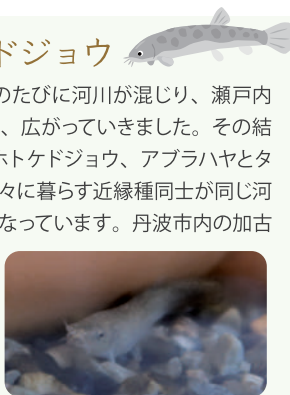
由良川流域の南西には、日本海側と太平洋側に降った雨を分ける境界線である「中央分水界」があります。丹波市氷上町石生は標高95.45mの低地帯となっており、本州の中で一番低い分水界（中央分水嶺最低点）です。このわずか95m～100mの高さの中央分水界「水分け」がある細長い低地帯は、『氷上回廊』と呼ばれており、日本海と瀬戸内海を結ぶ一本の道のように由良川水系と加古川水系をつないでいます。

が海底に沈み、50mで福知山市から丹波市市島町あたりが海底に、さらに100mになると瀬戸内海の海水と日本海の海水が丹波市氷上町石生の「水分け」で合流し、本州を分断する海峡が出現する様子がよくわかります。



絶滅危惧種 ホトケドジョウ

氷上回廊の低地帯では洪水のたびに河川が混じり、瀬戸内海側と日本海側の魚が出会い、広がっていきました。その結果、ホトケドジョウとナガレホトケドジョウ、アブラハヤとタカハヤなど、本来は南北で別々に暮らす近縁種同士が同じ河川で共存する、珍しい水域となっています。丹波市内の加古川水系と由良川水系に生息するホトケドジョウの遺伝子は、水系が分断されているにもかかわらず、出所は全て同じだそうです。



芦生研究林内の 由良川源流

本研究林（約4,200ha）は京都府北東部に位置し、標高は355～959mです。そのうち標高600～800mの範囲が約3分の2を占め、由良川の源流から5次谷までの河川を含んでいます。傾斜30～40度の急峻な地形が多く、斜面に応じた樹木の分布密度にも変化が見られます。急峻な斜面に立つ樹木の根元は、雪の重みも加わり「レ」字型に根曲がりしています。芦生研究林の木々は、こうした自然の厳しさに耐えながら、由良川源流の清澄な川の水を生み出しているのでしょう。

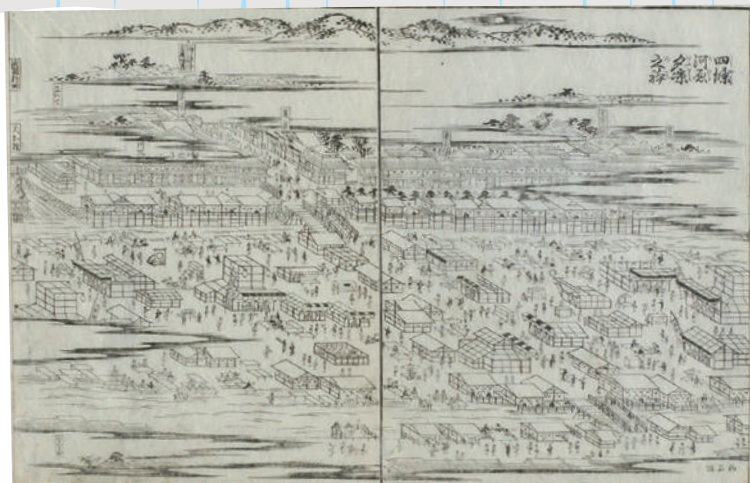


水を訪ねて

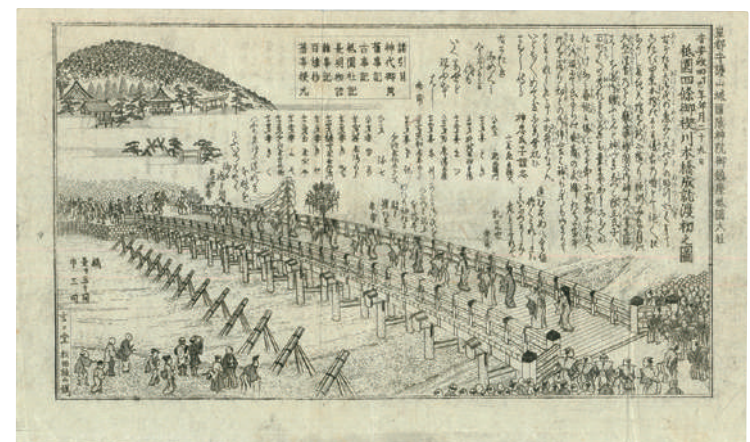
豊かな水と美しい自然に恵まれた歴史と景観《前編》

（社）近畿建設協会 水環境研究部門 顧問
京都大学防災研究所 特任教授

和田桂子



江戸期の仮橋『都名所図絵（巻之二）』【国際日本文化研究センター所蔵】



安政4年に架橋された四条大橋（祇園四条御視川本橋成就渡初之圖）

この橋以降を第3期とする。民衆によって架橋されたが、痛みが激しくなり、オランダ人技術者のホーデルが明治7（1874）年に橋長が50間、幅員4間の鉄製の橋梁を架橋した。西洋のスタイルがいち早く導入されており、文明開化の象徴であったともいえよう。桁は輸入されたが、橋の高欄には阿弥陀寺や正法寺の梵鐘などを溶かし使われてい

る。鉄橋はその姿から「くろがね橋」と呼ばれ、評判が悪かった。その理由は、大人1銭、車馬2銭の橋銭である。この通行料の徴収は明治14（1881）年まで続いた。この姿が大きく変わるのが大正2（1913）年である。渡り初めの記念絵葉書を見ると「大正二年三月二十三日渡初式舉行之京都四條大橋」とある。橋面には電車、中央には式典に相応しく提灯が架けられている。美しいアーチ橋で、橋脚のスリットにも大正ロマンを感じる。構造は東京帝国大学教授の柴田畦作氏の設計で、直線的（平面的）な装飾

期を天正期までとした理由は、かの織田信長も従前にならい天正5（1577）年に家臣の村井貞勝（？）1582）に架橋を命じたことが、吉田神社の神主であった吉田兼見（1535―1610）の日記『兼見卿記』の天正4（1576）年6月25日条にある「四条橋之普請多分出来也」などからわかる。様相が一変するのは、豊臣秀吉が天正18（1590）年に三条大橋と五条大橋（現在の場所）を架橋し、新たな都づくりを進めたことによ

る。この行為によって、四条大橋は長大橋から仮橋に代わり、遊芸、納涼などを楽しむ空間の一部となる。この期間を第2期とした。『都名所図会（巻之二）』（1780年）の「芝居」に、豊臣秀吉が五条橋の南で興行していた芝居を四条河原に移し、その後に中断もあったが、承応2（1653）年に四条河原の中州で再興され、縄手四条の北に移り、寛文年間（1661―173年）に芝居小屋が建てられたとある。芝居小屋が現在の南座の場所に移転する前の

様相は、静嘉堂文庫の「四条河原遊楽図」（寛永期1624―44年）などに見ることができる。その後の様相について、『都名所図絵（巻之二）』の「四条河原夕涼之体」を見ると、左右両岸から四条河原に降りる仮橋であることがわかる。仮橋であった第2期の四条橋は鴨川を渡るだけでなく、四条河原の一部として鴨川の流れを身近で楽しむ役割も担っていたともいえよう。平安期と同様の長大橋としての四条大橋が再び登場するのは、安政4（1857）年のことである。この木製の長大橋（橋長53間、幅員3間）は、下古京宿老、祇園神輿轅町氏子、祇園町などの人々の願い出によって架設された。



明治7年に架橋された四条大橋（絵葉書）

鴨川の三条から五条間で架設された平安期の橋梁は、四条橋（現在の



水資源・環境学会のブックレット『京都・鴨川と別子銅山を歩く』

述がみられる。他に『百練抄』（鎌倉後期）の仁平4年（1154）年

3月29日条に「祇園橋供養」などがあることから、平安後期には、祇園社への参道として架橋されていたことは確かであろう。

たその役割を果たしている。第1

台風の状態を示すTV中継で、リポーターの「京都からです」の言葉と共によく使われる映像が、「三条大橋」と「四条大橋」である。京都のシンボルと言えば両橋といえる。しかし、三条大橋も四条大橋も多くの人が渡っているのに、誰一人として橋に関心があるようには見えない。これではいけないと、両橋を見るために世界中から観光客が訪れるようにお願い、水資源・環境学会のブックレット『京都・鴨川と別子銅山を歩く』を2024年7月に刊行した。本号では、著書で紹介している三条大橋と四条大橋の変遷に加えて、架橋の意義についても述べてみたい。

四条大橋と清水橋（旧五条橋…現在の松原橋）になる。この2つの橋は勧進橋で、清水橋は名称が示すように清水寺への参拝を目的に架橋された。四条橋も祇園社（八坂神社）に参拝するために、神仏習合であった祇園社の僧侶等によって架設されたため「祇園橋」とも呼ばれていた。四条大橋は、その利用形態と構造から3期に区分できると考えている。第1期は平安期から天正年間（1573―192年）までとし、第2期は中州と岸の間に板を置いただけの仮橋であった江戸期。第3期は祇園社の氏子などによって長大橋が架橋された安政4（1857）年から現在までの間である。



鎌倉期の四条橋（祇園橋）『一遍上人絵伝』【東京国立博物館所蔵】

なられた方も多いのではないだろうか。絵図から幾つかの事がわかる。まず目に入る鴨川右岸の赤く塗られた鳥居から祇園社への参道としての橋梁と判断できる。鴨川に架かることから、長大橋であったと推察される。幅員は人物との比較から5m程で、高欄には擬宝珠がつけられている。現在にも通じる立派な橋梁である。構造を見ると、丸太を河床に打ち込み2本の水貫で固定し、その上に板材を置いた太鼓橋であったがわかる。この構造は、現在の三条大橋や渡月橋に引き継がれている。その後も『師守記』の貞和5（1346）年6月11日に「今日於四條川原為勧進有田楽（略）貴賤群集（略）棧敷悉令破損、當座死者百余人云々」とあり、勧進聖が行った田楽を見に来た群衆が棧敷倒壊によって、百余人もの死者がでたことがわかる。同『師守記』の応安7（1374）年に「四條川原橋事始云々 一向勧進僧沙汰也云々」とあるなど、勧進橋としてその役割を果たしている。第1

の改修で天正の石柱を全部取り替えた」と記しており、天正十七年と刻まれている石柱の製作年については不明の部分も多い。

青銅で造られた擬宝珠も古く、年号が刻まれている現存の擬宝珠としては日本最古とされ、「洛陽三條之橋至後代化度往還人盤石之礎入地五尋切石之柱六十三本蓋於日城石柱橋濫觴乎天正十八年庚寅 正月日豊臣初之御代奉増田右衛門尉長盛造之」などと刻まれた10個の擬宝珠が使われている。異なる言葉が刻まれている擬宝珠は2個ある。左岸の下流側から2ヶ所目の擬宝珠には明治45（1912）年から昭和25（1950）年まで沿革が記され、左岸上流側の擬宝珠には上記の文字に加えて「升本直一」（人物の詳細不明）の文字が彫られている。他の8個は上記の文面ではあるが、刻まれた字体や「洛陽」を「雒陽」、「造之」を「造焉」などに違いが見られる。これらの相違は、造られた時代が異なるためと推察している。その理由は、五条大橋の最も古い正保2年（1645）の擬宝珠に「雒陽五条石橋」と刻まれており、三条大橋に

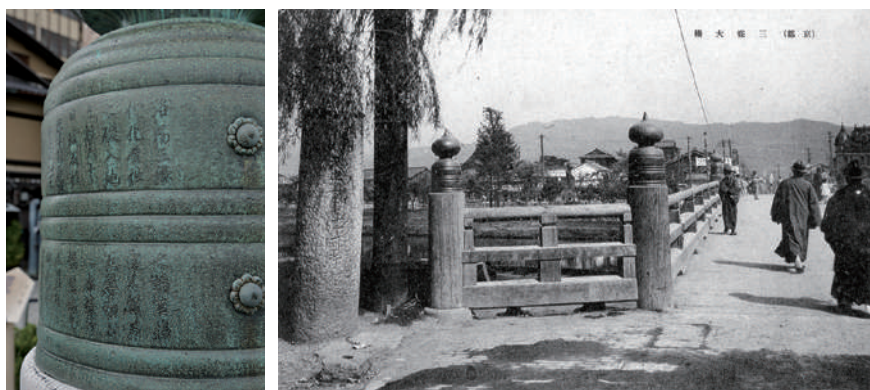


大正2年に架橋された四条大橋（絵葉書）

し、流れてきた木材などでアーチ部分が閉塞され越流することで被害が広まった。このことを受けて河積断面を広げるために昭和17（1942）年に連続非合成プレートガーダー橋に架け替えられた。驚いたことに、左岸側の橋台はコンクリートアーチの橋脚をそのまま使っている。この橋台の上流側に大正ロマンのスリットを見ることができる。

昭和40（1965）年の改修（橋長65m、幅員25m）に際して、全国で初めて高欄のデザイン公募を行い、現在の青銅の手すりを持つ線形の美しい高欄が採用された。これまでに述べてきたように、勧進橋で始まった四条大橋は、高欄デザインの公募などに見られるように庶民に支えられてきた橋梁といえよう。

庶民の橋であった四条大橋と対比できるのが三条大橋である。三条大橋は時の為政者であった豊臣秀吉（1537-1598）の命により、五奉行の一人である増田長盛（1545-1615）が天正18（1590）年に架橋した。天正以前の記録をみると、室町前期の公家である広橋兼宣（1366-1429）の日



石柱のモニュメント（絵葉書）

擬宝珠に刻まれた文字

においても「雒陽」と刻まれた擬宝珠は、「洛陽」と刻まれた擬宝珠より古いのではないかと考えている。

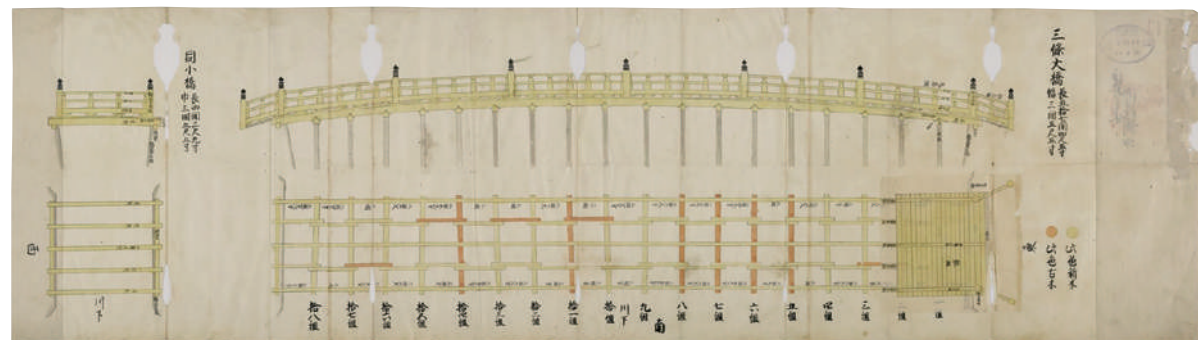
これまで述べてきた石柱の橋脚や擬宝珠、高欄など当初の形状を引き継いでいるのは、鴨川に架かる橋梁の中では三条大橋だけである。現在の三条大橋は高欄が摩耗したこと、京都市が寄付を募り修復し、令和6（2024）年1月16日に竣工式を行った。美しく



四条大橋の高欄

記『兼宣公記』の応永30年（1423）5月24日条の記述に、幕府三条河原橋の科を課すとある。時代は下がり、16世紀前期の作である「洛中洛外図屏風 歴博甲本」（国立民族学博物館所蔵）に描かれているのは簡易な橋である。これらの秀吉以前の状況は、公家等の日記等を調べることで、より明確になるであろう。

江戸期の橋梁構造について京都大工頭であった中井家に伝わる文書『三条大橋小橋絵図』を見ると、18



三条大橋小橋絵図【中井家文書、京都大学貴重資料デジタルアーカイブ】

列の橋脚で橋体を支え、欄干は18個の擬宝珠で飾られている。詳細は松村博氏の『京の橋ものがたり』（1994年）に詳しい。注目したいのは、高欄を飾る前述の擬宝珠との橋脚に使われている石柱である。石で造られた円柱の橋脚は、橋の北西角にモニュメントとしても置かれている。石柱は長さが十尺（約3m）、直径が二尺三寸（約70cm）で、「天正十七年津国御影七月吉日」と刻まれている。現在、橋面を支える40本橋脚（8列×5本）の内、8列の下流側の橋脚の7本が石柱である。

なった三条大橋の周辺では、市民が建立した「駅伝発祥の地」「花の回廊竣工碑」「歌碑」などの石碑（モニュメント）も楽しむことができる。

三条大橋は歌川広重（1797-1858）が東海道五十三次として、「京師（三条大橋）」を描いているように、秀吉が街道整備を重視する中で架橋されたと考えられるが素直である。そうは思いつつも、筆者はもう一つの位置づけがあったと考えている。それは、京都の町衆に対して、関白としての力を示したかったのではないだろうか。そう考える理由は、祇園社の参道として平安期から桃



歌川広重が描いた「京師（三条大橋）」

山期までの間、民衆によって架橋されて続けていた四条橋が途絶えたことにある。

興味深い事に、祇園社の氏子の力で架橋された第3期の四条大橋もわずか17年で、明治政府（京都府）が文明開化を示すがごとく、西洋風の鉄製の橋梁に付け替えている。さらに近代化が進むと、当時の最新の技術であった鉄筋コンクリート製のアーチ橋へと変わる。利用者の多く、誰もが目にする橋梁は、権力の象徴として活用しやすいのかもしれない。

鈴木ゼミは、これらのことを踏まえて、水を大切に思う心の象徴として、高欄等が美しくなった三条大橋を京都の「水の聖地」として認定している。これまでに、鈴木ゼミは「鴨川デルタ」「錦の水」を認定しており、これらの地を世界中から「水の聖地巡礼」に訪れるようになることを願っている。



「水の聖地・三条大橋」を説明する鈴木ゼミ生

桂川・宇治川・木津川、三川合流部の文学

評論家・文化プロデューサー

河内厚郎



桂川・宇治川・木津川の三河川は、京都府と大阪府の境、天王山と男山に挟まれた地で合流して（山城・近江・河内・伊賀・丹波の水を集め）淀川になり、摂津国（右岸、高槻・茨木など）と河内国（左岸、枚方・寝屋川・守口など）を分ける形で

大阪平野を流れて大阪市中に入る。この三川合流部では、古来より様々な治水工事が行われてきた。今の姿になったのは明治から大正にかけて。現在、木津川は淀川と合流し、次いで桂川が合流するが、昔は巨椋池の端に三川が流れ込む地形であった。昭和47・57年の洪水では、宇治川の淀地点や桂川の納所地点で、木津川からの逆流現象が確認されている。



三川合流部【出典：Google earth に加筆】

て、往時の種子などをもとに自宅で蓮を育ててきた篤志者により、巨椋池花蓮品種の保存や観蓮会が現在も行われている。

谷崎潤一郎の『蘆刈』

谷崎潤一郎の『蘆刈』（昭和7年）には「ひがしの方の京都を中心とする山城の平野と西の方の大阪を中心とする摂河泉の平野とがここで狭苦しくちぢめられていてそのあいだをひとすじの大河がながれてゆく」と、淀川のこと記されている。



『蘆刈』記 谷崎潤一郎／中公文庫

『蘆刈』は、淀川の中州や巨椋池を舞台に、夢幻能の様式を借りた短篇小説。前半は昔を懐古する紀行

『万葉集』には「柿本朝臣人麻呂之歌集所出」の雑歌として「巨椋の入江響むなり射目人の伏見が田居に雁渡るらし」（おほくらのいりえとよむなりいめひとのふしみがたみにかりわたるらし）が収録されている（巻9、1699）。これが「巨椋」という名の初見で、上代には巨椋の入り江と呼ばれていたことが窺える。「射目」は雁を狩猟する際に猟師が身を隠した遮蔽物のことで、「伏見」の語源とも考えられている（「射



山城国水系図 江戸時代中期【京都府立総合資料館所蔵】

的な文体が続き、後半は老人が語り手となって、男ひとりに姉妹という三角関係の話が進む。耽美的で性愛的なエピソードが、当時子どもだった老人を通して語られる。「見わたせば山もとかすむ水無瀬川ゆふべは秋となに思ひけむ」という後鳥羽院の歌が引用されて、物語に厚みを添える。

この作品に登場する遊さん（遊さま）は、谷崎の3人目の妻、松子夫人がモデルといわれ、筆者も会ったことがある（昭和58年、傘寿の祝い）。芝居がかったところのある、優艶な女性であった。

新月や いつをむかしの 男山
（宝井其角）
をそこやま 峰さしのぼる 月かけ
にあらはれわたる よどの川舟
（香川景樹）

京都府の八幡は、石清水八幡宮の鳥居前町として発展した。鳩ヶ峰（八幡山）男山山系の竹林は『竹取物語』の舞台のモデルといわれ（長岡京との説も）、トーマス・エ

ジソンが世界で初めて白熱電球を発明した際、電球のフィラメントに八幡の竹を使用した。市内にはエジソン記念碑（石清水八幡宮境内）やエジソン通りがあり、エジソンの故郷・オハイオ州マイランと八幡市は姉妹都市を結んでいる。1980年頃、大阪府枚方市への越境合併、あるいは八幡市単独での大阪府への移行が市民団体に要望されたこともあった。

京都府久世郡久御山町と八幡市を結んで木津川に架かる上津屋橋は日本最長級の木造橋梁で、その構造から「流れ橋」と通称され、映画やTVドラマなど時代劇の撮影に使われてきた。

本能寺の変の直後、明智光秀の軍と羽柴秀吉の軍が激突した山崎の戦いで、双方から加勢を依頼された筒井順慶は、いったんは明智側に従って、山崎の南方にある洞ヶ峠（八幡市八幡南山と大阪府枚方市高野道・長尾峠町の境にあり、かつては東高野街道の中継地であった）まで兵を進めながら、最終的にはどちらに付くか日和見をしたという言い伝えにより、日和見すること

『双蝶々曲輪日記』『引窓』
文案絵葉書 下瀬翠・画

世話浄瑠璃の名作

浄瑠璃や歌舞伎で知られる『双蝶々曲輪日記』（二代目竹田出雲・三好松洛・初代並木千柳の合作、1749、大坂竹本座初演）の「引窓」（第八段）は、心ならずも人を殺めた関取の濡髪長五郎が、一目会い

を「洞ヶ峠」「洞ヶ峠を決め込む」と表現するようになった。

『徒然草』第52段は、石清水に詣でたことがなかった仁和寺の法師が、あるとき思い立って参詣に来たものの、手前（麓）にある高良神社と極楽寺のみを参詣。肝心の本社には参らず帰ってしまい、「神様へお参りすることが本意だと思い、山までは見に行かなかった」と周囲の者に語った。ちよつとしたことにも案内役は必要という話である。

たいとひそかに訪ねた母の家は、引窓（屋根に設け綱を引いて開閉する窓）の風物で知られる八幡の里にあった。思いがけない再会に喜ぶ母と息子だったが、再婚した母には、代官に出世した義理の息子（南与兵衛、武士の名は南方十次兵衛）がおり、濡髪を捕縛する役目を負っていた。実の子と義理の子の板挟みとなる母、互いの立場を思いやる息子たち。結局、与兵衛は濡髪を河内の国へ逃がしてやる。

『双蝶々曲輪日記』は、大坂新町の遊女・吾妻と山崎与次兵衛を主人公に展開する、「吾妻与次兵衛物」と呼ばれる一連の作品群の中にある。与次兵衛のモデルは、山本（接ぎ木が発明された植木の産地、現・宝塚市）の富豪で、名妓の吾妻太夫を身請けした坂上與次兵衛とされる。吾妻は晩年、巡礼街道に沿った山本の正念寺に庵を結び、中山寺の参詣者に茶をふるまったと伝わる。

大坂松竹座に開設された上方歌舞伎塾出身の俳優たちによる「上方歌舞伎会」で、『双蝶々曲輪日記』の中では殆ど上演されない「道行

乱朝恋山崎」が演じられ、淀川を航行する場面が話題になった（平成27年8月22・23日、国立文楽劇場）。

水上勉の描く、薄幸な女性像

水上勉の『越前竹人形』（昭和38年）では、竹細工師の父を失った喜助の元へ、美しい女が訪ねてくる。父に世話になったという芦原遊廓の遊女玉枝であった。彼女の面影は心につよく残り、名前を頼りに探しあてた喜助は玉枝とささやかな式をあげるが、なぜか肉体関係は結ぼうとせず、竹人形作りに没頭する。玉枝の姿を写しとった人形は「越前竹人形」という名で売り出された。

喜助の留守に京都から卸元の番頭忠平が仕入れにやってくる。思いがけず玉枝が京都の島原にいた遊女と知って挑みかかり、妊娠した玉枝は、



『越前竹人形』
価格 DVD¥3,080(税込)
発売・販売元 KADOKAWA

さは今も私の目にあります。どうしてもあんなに美しかったのでしょうか。私たちは駅前の有名な茶室妙喜庵の閉された古い門の屋根の下で時雨をやり過ごし乍ら、駅の直ぐ背後から急な勾配をなして大きく目の前に立ちはだかっている天王山を見上げて、思わず二人ともその美しさに息を呑んだものでした」の件りは、男女が取り返しのつかぬところへ来たことを述懐するシーンで、山崎の風光が効果的に描かれる。

英語・フランス語・ドイツ語・イタリア語などに翻訳出版され、松竹映画にもなった（昭和36年、山本富士子・岡田茉莉子・佐分利信・鰐淵晴子・佐田啓二、監督・五所平之助）。中谷美紀の朗読劇『獵銃』は各演劇賞に輝き、ニューヨークでも上演された。

サントリーの山崎蒸溜所（大阪府三島郡島本町山崎）におけるウイスキーづくりの特長は、世界にも類を見ない多彩な原酒のつくり分けにあり、山崎の工場では、製造工程から匠の技、テイスティングと、ウイスキーの魅力を体験できる。



サントリー 山崎蒸溜所

1919年操業の大阪工場（大阪市港区海岸通）はサントリーに現存する最古の工場で、同グループのジン商品を生産する唯一の国内拠点。セミナールームでは来場者が主力商品の「ROKU（六）」の原酒を味わいながらジンについて学べる。製造現場にはデッキを設け、新たに導入した蒸留金や原料を浸漬するタンクを見渡せる。2025年6月、翌年に始める見学ツアーの一部を報道陣に公開した。10億円を投じ、ジンの製造に使う蒸留器などを見学できるようにしたほか、360度のスクリーンを設置したセミナールームを新設、ジンの認知度を国内外に広めていく予定だ。

伏見の向島に住む叔母に堕胎の相談をしようと、叔母が客引きとして働く中書島の遊郭に向かう途中、宇治川の渡し舟に乗り込んだところで下腹の痛みに気を失う。対岸に着いた舟の上で我に返り、堕した赤子は川へ流したと、老船頭から聞かされる。憔悴して自宅に戻った玉枝はまもなく亡くなり、越前竹人形の製作は断ち切られた。

昭和38年に大映で映画化され、若尾文子の玉枝、山下洵一郎の喜助。忠平は西村晃、船頭は二代目中村鴈治郎であった。

交通の要衝の地

山崎橋は行基が神亀2年（725）に架けたと伝わる。大山崎（京都府乙訓郡）と橋本（八幡市）の間で淀川に架かり、日本三古橋の筆頭として（山崎太郎）と呼ばれたが、たびたびの洪水で流され、11世紀に廃絶。豊臣時代に一時復活したが、その後失われてから現在まで再建されず、1962年までは渡船が運行されていた。

山崎の周辺は古くから交通の要

衝で、幾多の合戦の場になった。豊臣秀吉（当時は羽柴秀吉）が明智光秀を破った山崎の戦いが天王山（乙訓郡大山崎町）の山麓で行われたことから、雌雄を決する勝敗の分かれ目を、

「天王山を迎える」あるいは単に「天王山」と呼ぶようになった。

大阪府島本町山崎から京都府大山崎町にかけての地は名水で知られ、日本における製油発祥の地（「えごま」の実を絞って油を採り神社の灯火に用いたのが始まりという）、離宮八幡宮には石清水の名の



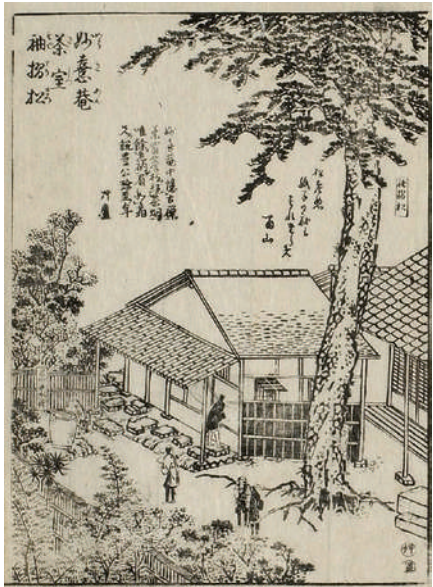
天王山と山崎合戦古戦場の碑

筆者はサントリー本社のある大阪・堂島のサントリーアネックスビルに事務所を置いた関係で、サントリー不易流行研究所の編集する書物（『都市のたくらみ・都市の愉しみ』など）に執筆してきた。小学生のころ隣席にいた「鳥井さん」はサントリーの一族と聞く。

時代浄瑠璃の舞台

赤穂事件を取りあげた浄瑠璃の名作『仮名手本忠臣蔵』（1748）には山崎街道の場面（五・六段目）が出てくる。五段目「二つ玉の段」の舞台、横山峠は、現在の京都府長岡京市友岡二丁目の周辺で、創作上の人物ながら「与市兵衛の墓」もある。

お軽の父・与市兵衛は、婿の早野勘平を主君の仇討ちの一員に加えるため、娘のお軽を祇園に身売りして工面したお金を持って山崎へ戻る途中、山賊に殺される。犯人と誤解されて腹を切る、勘平のモデルは萱野三平（1675～1702、赤穂藩浅野氏の家臣）。三平の切腹した長屋門は箕面市萱野



「都林泉名勝図絵」妙喜庵茶室・袖摺松
【国際日本文化研究センター所蔵】

元となった湧き水があった。JR「山崎」駅前の妙喜庵には、千利休の現存する二例の茶室作例のひとつ、茶室待庵（国宝）がある。

山崎の風光を活かす心理小説

『獵銃』（昭和24年）は、井上靖の初期の代表作。1人の男性へ送った3人の女性（不倫相手・男性の妻・不倫相手の娘）からの手紙を通して、4人の男女の4者4様の複雑な心理模様と、現代人の孤独を浮き彫りにした恋愛心理小説だ。作品に描かれた時代は戦前から戦後にかけて。主舞台は芦屋の屋敷町や夙川（西宮市）だが、抒情的な筆致で綴る「時雨に洗われた山崎の天王山の紅葉の美し

に残る。令和6年3月、北大阪急行（地下鉄御堂筋線に接続）に「箕面萱野」駅が開設した。



萱野三平旧居・長屋門（湧泉亭）

王朝文学から近代文学まで、三川合流地を舞台とする文芸やドラマには、思いがけぬ邂逅から運命の変転を経て、行く末に思いを馳せるといった作品が多い。

現・天皇は水運の研究から入って「水」の専門家になられた。「水の恩恵を享受しつつ、災害に対応することとは、人類共通の歩みでもあり、各国の水を巡る問題を知ることとは、それぞれの国の社会や文化を理解することにもつながる」という信条の持ち主である。

川は、誰にでも開かれた舞台 ～名張川から広がる、自然との出会いと学び～

名張川は、木津川の上流域に位置する清らかな流れの川です。私たちNPO法人「地域と自然」は、この川を拠点に、2004年から「名張クリーン大作戦」を主導しながら、20年以上にわたり自然の素晴らしさを伝える活動が続けてきました。名張川は、誰もが気軽に近づける水辺であり、自然との出会いの舞台として、これ以上ない環境です。



よし笛を演奏する天葦奏人ちよいまと名張川

1 自然を身近に感じられる図鑑やグッズの開発

川辺に立てば、風に揺れる草花、季節ごとに表情を変える樹木、さえずる野鳥の声、そして水中を泳ぐ魚や水辺の昆虫たち。そんな命の気配に耳を澄ませ、目を凝らすだけで、自然の奥深さに触れることができます。たとえば「この草は食べられるんだ」と気づいた瞬間、自然との距離がぐっと縮まる。知ることが、楽しさを深める鍵なのです。

その思いから、これまでにない図鑑の出版に挑戦しました。草花・樹木・水生昆虫・野鳥という、川辺で出会える自然の要素を一冊にまとめた、軽量でコンパクトな図鑑です。手に取りやすく、持ち歩きやすいこの図鑑は、川辺の散策をより豊かなものにしてくれます。

オリジナルグッズ事業では、自然を身近に感じられる雑貨に力を入れています。野鳥図鑑をモチーフにしたTシャツやクリアファイル、忍者が自然から学んだ技を図案化したT



たのしいおいしい ちよいまる流自然活用術『生きもの図鑑』

2 よし笛による音の交流

葦は、日本神話にも登場する、日本人が古来より大切にしてきた植物です。『古事記』『日本書紀』では、日本の国名を「豊葦原水穂の国」と表現しています。「豊葦原」は豊かなヨシ原、「水穂」は稲、つまりお米のこと。葦と稲は日本の象徴であることが示されています。



よし笛演奏

2008年より、よし笛事業に取り組み、2013年には「ちよいまるインターナショナル」を立ち上げて音楽出版事業を本格化。現在では、木津川流域のセイケカヨシの茎を使った「ちよいまる式よし笛」の製作・

3 ナマズ水田の取り組み

2024年には、フクロウの鳴き声が響く里山とナマズ水田に隣接する名張市黒田の田舎づくり古民家に拠点を移し、2025年からは行政機関・民間企業・農業者と連携し、川から田んぼへ魚の道をつくる活動を開始しました。名張川から支川を経て「ちよいまるナマズ水田」まで、延長500mの区間に数種類の魚道を設置。全国的にも珍しい多数のナマズの遡上を保全・復元する取り組みです。

ナマズは川魚の王様、大きな体は目視しやすく、象徴種として最適です。初夏にはナマズ水田で産卵が行われ、多数の赤ちゃんナマズが誕生



なまず魚道スタート地点付近で小学生と

しました。水田ではコシヒカリを栽培し、秋には地元農家の方々のご協力のもと、豊かな実りを収穫。川と田んぼ、人と魚がつながる風景が、ここ名張川に広がっています。

こうした取り組みは、ネイチャーポジティブの理念と深く響き合っています。自然を守るだけでなく、回復させ、より豊かな生態系を次世代へとつなぐことを目指しています。

名張川での魚道整備やナマズ水田の取り組み、よし笛による音風景の記録、図鑑や雑貨を通じた自然との接点づくりは、まさにその実践です。

4 自然とのつながりを活かした研修

NPO法人「地域と自然」ちよい



なまず水田

まるの自然普及事業が長年コツコツと積み上げてきた、ノウハウ、自然観察・音楽・食・農・文化を横断する知見を活かし、企業や行政機関の研修の場としても活用が進んでいます。自然の中で五感を開き、地域の生態系や文化に触れることで、持続可能な社会づくりへの理解と感性が育まれます。

また、出張による、よし笛演奏や環境トークショー、研修会の開催も可能です。名張川のフィールドを飛び出し、全国各地で自然とのつながりを伝える活動を展開しています。



環境トークショーの様子

さあ、川へ出かけましょう。そこには、まだ知らない自然との出会いが待っています。そしてその出会いが、私たち自身の未来を育てくれるのです。

NPO法人 地域と自然代表
（よし笛アーティスト天葦奏人ちよいまろ）

なかにし たかお
中西 崇雄

朝鮮通信使と淀川の川御座船

水都の会（水都大阪を考える会）代表

藤井 薫

朝鮮通信使をご存じでしょうか？江戸時代に12回にわたり来日した朝鮮国の外交使節団で、政府高官のみならず、文人、画家、楽隊など総勢500名もの大規模な使節が、ソウルから江戸を目指しました。



朝鮮通信使船【提供：韓国海洋遺産研究所】



朝鮮通信使のルート

昨年5月、大阪・関西万博開幕と軌を一にして復元された朝鮮通信使船が261年ぶりに大阪に來航。折しも淀川では万博を契機に大堰開門が新設され、河口から上流に遡上可能となり、62年ぶりに京都・伏見まで航路も復活しました。

この絶妙なタイミングで来阪した通信使船に対し、水都大阪再生を目指す市民団体「水都の会」は歓迎行事を主催するとともに、江戸時代同様、京都までの「淀川川御座船クルーズ」を再現しました。水都大阪と国技館をテーマとして連載してきた本稿ですが、今号は急遽予定を変更し、この朝鮮通信使船と淀川の川御座船についてご紹介させていただきます。

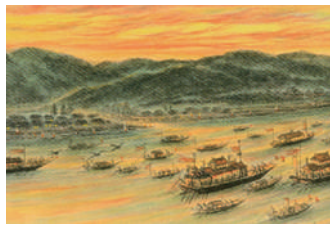
朝鮮通信使の辿った道と大阪

朝鮮通信使はソウルを出発し、6隻の通信使船で釜山より北九州を経て瀬戸内海を通り、大坂（以下「大阪」という）に到着。外洋船は市中に入れないため、大阪湾口で日本側の二

階建ての豪華絢爛な川船に乗り換えました。これが「川御座船」です。

川御座船と朝鮮通信使

市中に入った通信使は、難波橋で上陸。大阪の客館「北御堂」に向かいます。北御堂では大阪の知識人と書画の交換等文化交流が行われました。通信使の訪問先では様々な来歴が伝えられています



川御座船航行の様子

【出典：小林豊「淀川ものがたり お船がきた日」(岩波書店)】

が、大阪で特筆すべきは何と言っても川御座船による淀川の水運です。通信使の旅は過酷でした。当時の航海技術では海路は常に遭難の恐れがあり、陸路も険しい山や酷暑灼熱の厳しい道のりの連続でした。

しかし、大阪・京都の淀川の旅は、豪華な川御座船に乗り、150隻もの船団を組み遡上。安全かつ快適に風光明媚な景色を堪能できました。沿川には大勢の町民が詰めかけ、川御座船の大船団や見たこともない異国の風俗や音楽を楽しみ、和やかな国際交流が行われました。

朝鮮通信使と水都大阪の発展

朝鮮通信使の行路・宿舎の手配応接は主に經由地の大名が担いますが、淀川では幕府が直接行いました。川御座船の航行を安全かつ華麗に演出するため、淀川では時代ごとに新航路の開発が行われました。

江戸時代初期の朝鮮通信使は、淀川沿いの阪神伝法駅近くの仏教伝来の地と伝わる「伝法」で川御座船に乗り換え、市中へ入りました。

しかし、伝法は土砂の堆積が進み、潮位により船は立ち往生。自由に市中に入れるよう、木津川の難波島が

歴史と未来志向の都市づくり

今回、本格運用前にも関わらず淀川河川事務所のご尽力で大堰開門を開閉いただき、往時には及びませんが「川御座船」と大阪市漁協他数隻の船が連なり開門を通過しました。大堰に遮られ殆ど船を見ることがなかった淀川上流で、漁協など下流の船と枚方・伏見港等との今後の「淀川上・下流の交流」の端緒を作れたのではないかと思います。

万博でも提唱された地球温暖化に向けた水運によるモーダルシフトはまず地元の淀川から始めるべきです。更に、阪神大震災など頻発する大災害で陸上交通遮断となった際、帰宅難民等に即応するためには日常的に水運利用を行うことが不可欠です。

淀川の水運について時代を超え、地域を越えて広く知ってもらい、利用していくためには、江戸時代からの輝かしい水都の歴史の蓄積を未来の装置である開門の利用促進にいかにつぎつづけるかが問われています。

大阪での民際交流

大阪における通信使の話題でも一つ欠かせないのが民際交流です。朝鮮通信使が日本で交流したのは、

何故「川御座船」なのでしょう？多額の予算を投じ、江戸時代の船を復元し、来航する隣国の使節団への日本側の最高の「おもてなし」は往時の交流の再現に他なりません。淀川では明治期の長柄仮堰設置もあり、上下流の行き来が殆どできなくなり、通信使の川御座船はもちろ



十三港から「川御座船」が出発(5月14日)

は、すぐに利用してもらいたいという幕府の意気込みが感じられます。さらに川御座船の遡上に合わせ、浚渫等が進められましたが、これは結果的に後の三十石船など淀川の水運の円滑化に大きく貢献します。

朝鮮通信使船来航に合わせて行われた新航路の開発等は、万博やオリンピックなどの開催の際に行われる高速道路の整備など現代の公共事業と相通じるものといえましょう。

国際交流と水運の再現

歓迎するのに晩餐会はともかく、何故「川御座船」なのでしょう？多額の予算を投じ、江戸時代の船を復元し、来航する隣国の使節団への日本側の最高の「おもてなし」は往時の交流の再現に他なりません。淀川では明治期の長柄仮堰設置もあり、上下流の行き来が殆どできなくなり、通信使の川御座船はもちろ

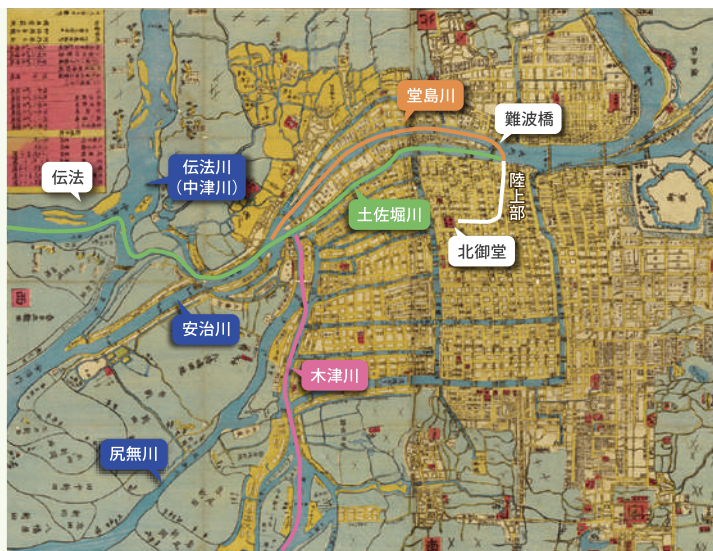


京都・伏見「御香宮」での歓迎会

ん、淀川三十石船の存在も忘れられてしまいました。大堰開門の新設と通信使船の来阪時期が偶然合致したことで、新開門のお披露目を兼ねた江戸時代の「川御座船の淀川遡上」再現の必然性を感じさせられました。更に河口から伏見までの民間初の淀川「一気通貫」航行となった今回の試みは、淀川水運再生の起爆剤となることも期待されました。

文字通りの関西万博

もう一つは大阪・関西万博です。会期中での淀川河川交通の復活は世界の注目を集めうる絶好の機会です。万博会場で行われた朝鮮通信使行列に始まり、通信使船歓迎晩餐会には大阪市副市長が、十三では淀川区長、枚方には枚方市長、伏見には京都府・市の万博担当局・部長にお出迎えいただき「府県域を越え、淀川流域が一体となり大阪、関西万博を祝うイベント」が実現しました。



萬寿大阪細見図(1863)

大坂市中乗入れの主要ルート

伝法川	江戸時代初期、第1回から第4回来訪時まで使用
安治川	1684年に開削。主要航路となるが通信使は使用せず
尻無川	江戸時代「唐人滞」と呼ばれた通信使船の係留場所だった川
木津川	第4回訪問時帰路から第11回まで使われた通信使の主要ルート
土佐堀川	上陸地点難波橋への主要ルート
堂島川	土佐堀川に加えて新たに整備されたルート

開削され、通信使は1637年の来日の帰路から木津川を航行します。行き帰りの航路を敢えて変えたの

主に經由地の接待役など各藩や幕府の武士で、官官交流が基本でした。しかし、裕福な町人が力を持っていた大阪では例外的に民際交流が行われました。特に明和度の第11次通信使(1764年)では、木村兼葎堂などの町人文化人グループが、終始使節団の情報を手し、加賀藩の儒者と通信使の間を取り持つなど積極的な交流を展開します。

木村兼葎堂
【出典：Wikipedia】

今回、大阪で水都の会のような市民団体が図らずも韓国の外交使節の歓迎会を開催し、川御座船クルーズを実施できたのも、大阪ならではの伝統があったからかもしれません。淀川遡上の際、川御座船を漕いだ水主達は通信使の楽隊の伴奏のもと幕府の儀礼歌「勇之御船歌」を歌いました。最初は期せずして始まったものと思われすが、当時としては非常に希有な国際的なハートニーが淀川に響き渡ったわけです。

現代ではすっかりメロディーが失われたこの歌を今回、水都の会で復元し、その中の「初春」を歓迎会にて披露しました。大阪の日韓の市民レベルでの交流の証として、是非歌い継いでいければと願っています。

いさむのおふなうた
勇之御船歌のうち「初春」の再現

流域治水探訪

近畿水管理・国土保全研究会 会員 梅田 和男

新シリーズ「流域治水探訪」を始めます！

今回から新シリーズ「流域治水探訪」です。近年、水害が多発する中で、「流域治水」という言葉を見聞きされることもあると思います。現在、この「流域治水」は全国の河川流域において実施されていますが、どのような目標に向かって進められているのでしょうか。また、そこで



近畿地方整備局
流域治水推進室 室長
谷口 昭一さん

はどのような事業や活動が行われ、どのような人々が携わっているのでしょうか。こうした実情を紹介するため、シリーズ名には「物事の事情や真相を探るために現場を訪れる」という意味を持つ「探訪」を用いました。近畿管内で進められている「流域治水」について、その全体像や具体的な取り組みなどを、一般の方にもわかりやすくお伝えしていきたいと思っています。

初回は、近畿地方整備局において管内の流域治水を推進されている流域治水推進室室長谷口昭一さんにお話を伺いました。

1 流域治水推進室について

流域治水推進室が設置された背景と役割は何でしょうか。

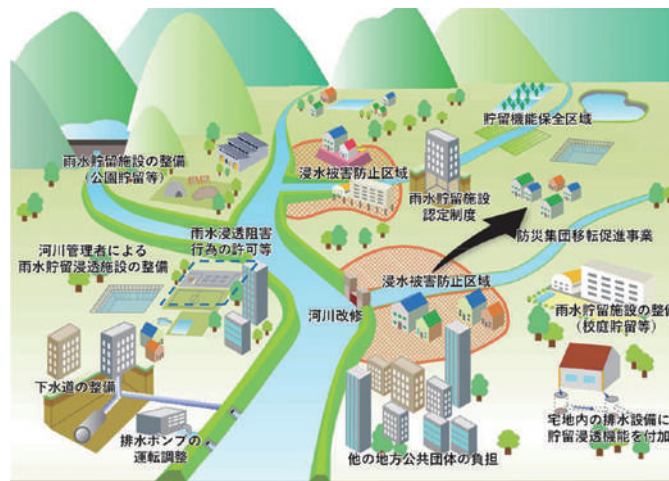
近年、平成30年7月豪雨や令和元年東日本台風（第19号）など、人命や社会経済に甚大な被害をもたらす災害が多発しています。さらに、気候変動の影響により、今後は台風や前線による豪雨の激化、水害の頻発・激甚化が懸念されています。

■被害対象を減少させる

浸水リスクの低い土地への住宅や事業所などを誘導する施策、住宅の床高を上げるなどの住まい方の工夫、道路などを少し高くして浸水範囲を減らす工夫など、まちづくりの観点からのアプローチです。

■被害を軽減し早期復旧・復興させる

氾濫水を速やかに排除する施設整備に加え、土地の浸水リスク情報の充実、避難体制、被災自治体への支援などです。



特定都市河川流域におけるハード・ソフト対策のイメージ

3 近畿管内での取り組み

近畿管内での取り組みは、何をすれば確認できますか。

近畿地方整備局のホームページでは、近畿管内における、国が管理する10水系と府県が管理する2級水系の「流域治水プロジェクト」を掲載

プロジェクト」と呼ばれる計画が令和3（2021）年3月に策定・公表されています。また同年11月には、流域治水を本格的に実践するための流域治水関連法が全面施行されました。

流域治水の施策は、関係省庁、地方公共団体、民間企業、NPO、地域住民など、多くの関係者が協力して実施することで効果を発揮します。流域治水推進室は、様々な関係者との連携調整を密にし、取り組みを円滑に推進するため、河川部局とまちづくり部局を含む新たな組織として整備局に設置されました。

2 流域治水について

どのような考え方ですか。

流域治水は、令和2（2020）年7月の社会資本整備審議会答申「気候変動を踏まえた水災害対策のあり方について」に基づいて実施されています。

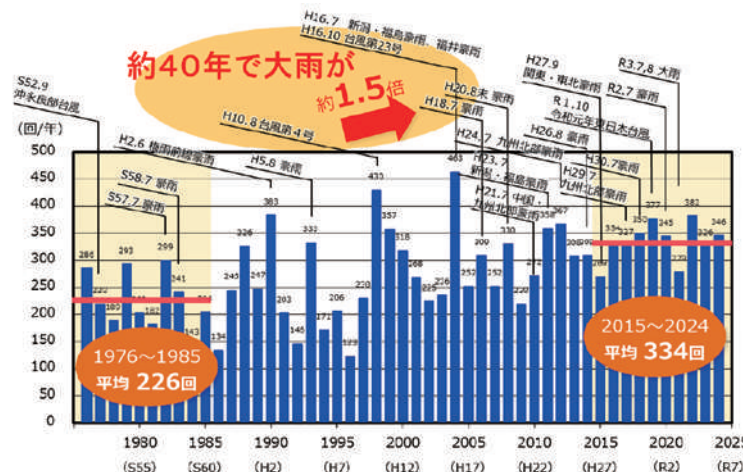
本答申では、気候変動の影響や人口減少・少子高齢化が進む社会の動向等を踏まえ、これからの水災害対策として①気候変動の影響を治水計画等に反映し②あらゆる場所に

しています。各流域の地図に全プロジェクトを掲載し、どのような取り組みか一目でわかるようになっていきます。

PRしたいことなどありますか。

近畿管内では、流域治水関連法の中核となる「特定都市河川浸水被害対策法」に基づき、全国に先駆けて取り組みを進めています。この仕組みでは、流域治水対策が必要な河川を「特定都市河川」に指定し、関係機関が共同で概ね20～30年の期間にわたる「流域水害対策計画」を策定します。計画に基づき、河川改修や下水道の雨水対策が計画的・集中的に実施されるほか、浸水拡大の抑制に効果があると認められる土地を「貯留機能保全区域」として指定するなど、さまざまな施策が進められています。

流域治水関連法施行後、令和3（2021）年12月24日に大和川（奈良県域）は全国初の特定都市河川指定を受けました。流域水害対策計画の策定、令和6（2024）年7月30日の2地区での貯留機能保全区域指定も全国初で、現在、計画に基づ



時間50mmを超える短時間強雨発生増加の図

具体的にはどのような対策が実施されるのですか。

対策は大きく分けて、次の3つになります。

■氾濫をできるだけ防ぎ・減らす

河川・下水道管理者による治水・雨水対策に加え、利水ダムの事前放流による治水機能の強化、流域での雨水貯留・浸透施設の整備、ため池

く諸施策が進められています。

このほか、近畿管内では、令和7（2025）年1月28日に和歌山県の日高川水系西川が、同年6月20日に淀川水系芥川が、特定都市河川指定されています。

引き続き、特定都市河川の指定を推進し、計画の内容の充実や実施の強化に取り組むことで実効性を高めていきたいと考えています。

4 今後の進め方

流域治水推進についてメッセージをお願いします。

流域治水は河川・下水道管理者に加え、利水ダム関係者や農業関係者の取り組み、市町村のまちづくり、住民参加による避難体制整備など、流域内のあらゆる関係者の協働により進められるものです。そのため、流域治水に参加する必要性やメリットを明確にし、流域治水への協力の輪を広げていきたいと思っています。



すみずみで守る、
を主流に。

どこよりもつよい流域治水をともに

大和川流域治水ロゴ